

ファイナル・レポート

国際ハードウェアメッセ / プラクティカル・ワールド2006

会期: 2006年3月5日(日)～8日(水)

会場: ドイツ連邦共和国 ケルンメッセ会場

「国際ハードウェアメッセ 2006」は従来の毎年開催から隔年開催に変わり、今回がその第1回目となりました。140カ国から7万5千人に及ぶ来場者を集め(2004年:114カ国、7万4千人)、外国からの来場者は全体の53%に上りました。国際ハードウェアメッセは4日間の会期を終え3月8日(水)に閉幕しましたが、この結果は前回の記録を若干上回り、「国際ハードウェアメッセ」が業界のリーディング・メッセであることを改めて確固たるものにしていきます。

今回の展示会は25万5千㎡を使用して開催され、58カ国から3,491社の出展があり、そのうち78%に当たる2,694社が外国からの出展でした。来場者数に関しては、今回は南米諸国から60%、アメリカ合衆国から26%、またアジアからは20%の増加が見られました。会期直前から南ドイツ地方での大雪による大混乱のため、会場にアクセスできず最初の3日間に来場できなかったドイツ国内のビジターが少なからずいました。また現在の経済状態と業界は決して絶好調ではありませんが、それでも前回を上回る来場者数を記録できたことは大きな成功、とケルンメッセのオリバー・クアト副社長は述べました。

「国際ハードウェアメッセ 2006」では、アジアからの製品を集中展示する新しいコンセプトを採用しました。とくに中国からの出展者に関しては商品の質と適正基準を設けることで前回より100社程少ない625社となりましたが、展示面積はほぼ同等の広さを占めました。このように出展者の質の向上も図られています。また同時に出展者や業界関係者の間からは、来場者の質の高さに対する評価も数多く聞かれました。今年1月より使用開始となった新北ホール(6, 7, 8)には建築関連・DIYセグメントの展示商品がすべて移動し、電動工具・手動工具類、アクセサリ類とは完全に分離した形での展示となり、来場者にとってもわかりやすいコンセプトとなりました。

ドイツ第二の金物産地であるチューリンゲン州のディーター・アルトハウス首相は、卸業者、業界関係者、政治家ともに今回の展示会には大変満足していると述べ、国際ハードウェアメッセのビジネスプラットフォームとしての役割を高く評価しました。

次回の「国際ハードウェアメッセ / プラクティカル・ワールド 2008」は2008年3月9日(日)～12日(水)までドイツ連邦共和国ケルンメッセ会場にて開催されます。

プラクティカル・ワールドと交互開催で「APS(アジア・パシフィック・ソーシング)」が2005年よりケルンで開催されています。次回の会期は2007年3月4日(日)～6日(火)です。